茶畑 SRtime

第 155 号「『世界津波の日』2022 高校生サミット in 新潟」
2022 年 11 月 4 日発行
発行元　津波サミット参加者

10 月 17 日(月)から 10 月 20 日(木)にかけて新潟県新潟市で開催された**「『世界津波の日』2022 高校生サミット in 新潟」**に 2 年生 2 名で参加しました。オンライ参加者も含め 470 名の世界各地の高校生が参加しました。1 日目，2 日目は新潟県の災害の特色とその復興について学ぶ**「若き津波防災大使スタディツアー」**に参加しました。3 日目，4 日目は災害について各校が研究した成果を発表し，問題点と解決策について話し合いました。また全国の高校生や留学生との交流を行いました。

『世界津波の日』2022 高校生サミットについて

○発表準備と本番

10 月 19 日に，同じグループの人へ向けて，自分達の研究を英語で発表しました。この津波サミットに参加するにあたり，夏休み頃から研究を始め，学校紹介のビデオや発表用の原稿やパワーポイントなど様々なものを短期間で仕上げました。76，77 回生，中学生 3 年生，英語の先生方など，のべ 550 人を超える方々にご協力をいただきました。

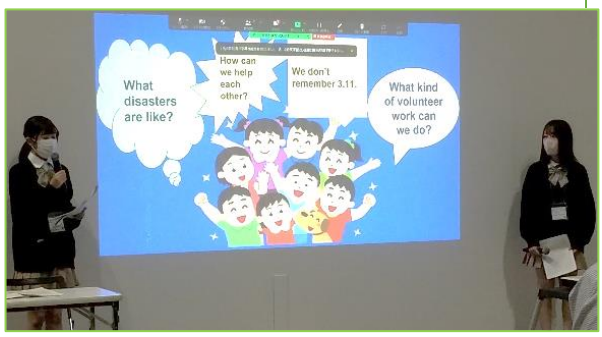
テーマ**「私達の世代に求められる復興と未来のための復興」**

調査結果：

① 今の世代は，災害時に自分を守る方法は知っているがその後の共助の知識がない
② 中学生には 3.11 の記憶がない人がいた
③ ほとんどの人が同じ地域に住み続けている

アクティブプラン：

① 中高生にもできる共助を調べ提示する
② 若い世代に 3.11 の記憶を伝え，災害について実感を持って知ってもらう
③ 地域特有の災害対策を幼い頃から学校で教える



もちろん緊張しましたが，伝えたいという意志を持って聞き手の目を見ながら発表することができました。質問をもらえたのも嬉しかったです。そして，ディスカッションではグループ内の司会にも挑戦しました。ディスカッションの流れを作り，メンバーの意見を英語で即興でまとめるなどと大変なことも多かったですが大きな学びになりました。

○フェニックス宣言

上記のように，全国の高校生と海外からオンラインで参加している高校生が自分達なりに調べたことをまとめ，それぞれのグループ内で発表しました。そしてグループ討議の結果を全体に発表し，**事前の教育や訓練，災害時の情報共有の重要性の他，使用言語が異なっていても世界中の人が理解できるよう 3D のハザードマップやピクトグラムの活用など**を訴えていました。他にも災害が起こった後の復興など，災害について様々な側面から考えることができました。

最終的には**災害からの復興や教訓を世界に伝え，継承していきたい**という，私たち若き津波防災大使の思いが込められた**「フェニックス宣言」**を採択し，閉幕しました。

若き津波防災大使スタディツアーについて

○「やさしい日本語」

ツアー1 日目に訪れた長岡市民防災センター。そこで長岡市国際交流センターのセンター長である羽賀友信さんから「災害時の外国人支援」についてのお話を伺いました。もし言葉も分からず，災害経験がない，知り合いもいない状況で突然災害が起こったとしたら…。考えるだけで恐ろしくなります。しかし，多くの外国人が災害時にそのような状況に置かれているのです。そのような状況下で私達に一番に求められているのは，「言葉の壁」を壊すことです。情報弱者である外国人に寄り添うための一つの方法として「やさしい日本語」を使うことが挙げられます。やさしい日本語とは抽象的から具体的に言語体系を変えることです。例としては被災者に声を掛けるときに「大丈夫ですか？」と尋ねるのではなく，「ご飯は食べられていますか？」などと明確な答えが出しやすい質問をすることが挙げられます。これは外国人だけでなく，小さな子供や高齢者も理解でき，平時にも役立ちます。

しかし言葉の壁以外にも，災害経験がないという「経験の壁」や宗教の違いによって避難所の炊き出しが食べられるか否かなどの「文化の壁」といった多くの壁を取り除く必要があります。

そしてこれからの外国人支援で重要となるのは，普段から地域の中で「顔の見える関係づくり」をすることだそうです。そのような関係づくりの中で，外国人もさまざまな情報や防災知識を身につけることができ，「支援される側」から「支援する側」として地域参加ができるようにもなります。

○親松排水機場

ツアー2 日目に訪れた排水機場。信濃川のすぐそばに位置しており，新潟の街を水害から守る働きをしています。私たちが今回見学させていただいたのは，2 台の電動機とガスタービン，そして排水ポンプです。ガスタービンは高いお金がかかるので普段は使わず，災害時に電気が無くても使える機械として設置しているそうです。新潟は「潟」という字からも分かる通り土地が含む水分量がとても多い地域です。親松排水機場では，常に潟と信濃川の水位がそれぞれ一定に保たれるように排水を行っています。排水能力は 60 m^3/s となっていて，これは一般的な 25mプールを 6 秒で空にできる速さだそうです。また，万が一全部の機械が壊れてしまっても丸 3 日は問題ないように設計されているそうです。

今回ここを訪れてみて，新潟が昔から水害と戦ってきたことを初めて知りました。今新潟で美しい川や建物を見ることができるのは親松排水機場をはじめ各地域の排水機場のおかげなのだと実感しました。また災害に対する備えが二重にされていて，故郷を守ろうという強い思いを感じました。

交流会について

19 日の夜には交流会が行われました。新潟県内の高校生によるダンスや日本舞踊の披露がありました。他にも，約 20 のグループに分かれて自己紹介をし，交流を深めました。使用言語はもちろん英語です！色々な県から来た高校生や留学生と交流できてとても貴重な経験になりました。